

平成15年度第5回日本生物物理学会運営委員会議事次第

日時：2003年9月23日（火）12：30～

場所：ROOM305

参加者：柳田会長、児玉副会長、美宅副会長（平成15年度年会実行委員長）、石渡次期会長、阿久津、有坂、入佐、喜多村、佐甲、諏訪、永山、三木、薬師、山縣、各運営委員、川端北海道支部長、河合秘書

議長：児玉副会長

報告事項：

1 平成15年度年会報告（美宅；資料なし）

順調にすべり出した。ポスターは、800強（例年よりも100多い）。850の参加登録（事前）者と350の当日登録者を確認し、総計1300－1400を見込んでいる。

予算について。支出は、懇親会費を含め、約3500万円（例年は約2000万円）。支出は、会場費700万円、運営費（含懇親会）1500万円、合同プログラム、ランチョンセミナーお弁当、神経化学会とは、使用面積・使用時間に応じて分担。収入は、広告（予稿集の広告と企業展示）780万円、ランチョンセミナー50万円×8件（400万円）、参加費約700万円、新潟県から700万円、予稿集500万円くらい。若干の赤字が予想される。

正確な収支報告は、次回（12月）の運営委員会にておこなう予定。

2 賞・助成金推薦委員会報告（児玉；資料：報2）

すでに以下のように、推薦を行ったことが報告された。東レに関しては、現在審議中である。

2003年度山田科学振興財団研究援助（曲山幸生、神取秀樹）、2003年度朝日賞（郷信広）、平成15年度上原賞（藤吉好則）、第44回東レ科学技術賞（赤坂一之）、第44回東レ科学技術研究助成（審議中）。

3 第19期日本学術会議生物物理学研連委員選挙結果報告（佐甲；資料：報3）

資料のように選挙開票結果が報告された。これに基づき、阿久津秀雄、石渡信一、木下一彦、栗原和枝、七田芳則、月原富武、豊島陽子、美宅成樹、山縣ゆり子の九名が選出された。

4 男女共同参画アンケートについて（児玉；資料：報4）

標記の件に関して、再び喚起された。この件には本学会から国岡氏が中心的に対応されている。現在5%程度の解答があるが、10%以上の解答を期待している。運営委員会のまわりから回答率を上げる努力が必要である。

永山委員：「学会ごとに回答率が集計されるのか？」

児玉副会長：「その通り」

総会においても宣伝する旨が柳田会長に確認された。

議 題

1 平成15年度中間決算の承認（阿久津；資料：議1）

資料のように報告された。平成15年度は現在、26,230,514円の収入があり、17,409,137円の支出がある。

内訳の中で啓蒙事業費が全く使われていないので企画担当の委員を中心に何かを企画し、生物物理学を学会外にアピールするために使用してほしい旨が述べられた。

会子電子化・将来事業特別会計については、現在1,004,229円の収入と、196,895円の支出となっている。

永山委員：「予算の収入30,740,000円と支出39,937,443円が合わせてないのはなぜか？」

阿久津委員：「年会の補助費が支出のみ、広告収入も最低で予算を組んでいる。年会で年会補助金が返還されたり、広告収入が増えることによって、例年は決算の際にバランスが合う。

予算の時には繰越収支差額で調整している。」

柳田会長からは、平成13年度・14年度ともに700万円、800万円の黒字になっている旨が述べられた。いずれも年会(大学で行われた)において大きな黒字を生み出している。

2 平成16年度予算案の承認（阿久津；資料：議2）

前年と比べ、収入では機関会員会費・賛助会員会費が暫減傾向にある。支出では、人件費の増加・学会事務センター業務委託費の増加がある。収入30,940,000円、支出37,690,000円という見かけ上赤字の予算が組まれた。収入の内訳の一つ、広告収入が暫減しているので最低限維持、できれば増額となるよう努力が必要である。また、支出の予備費は会長交代に伴う支出を見込んで300万円を計上している。

有坂委員「広告収入については、運営委員会に協力を求めたい。」

阿久津委員「継続して広告を依頼する企業は少ないのでこまめにこちらから依頼して繋いでいかなければならない。」

有坂委員「AE企画の仲介料は委員の推薦がある場合はどうなるのか？」

石渡次期会長「少なくとも委員の推薦の有無によって仲介料を変えていると思う。」

3 IUPAB2005 について （永山；資料：議3）

2005年の8月にフランス・モンペリエで開かれるIUPAB2005に関して。

推薦する Invited speaker の候補者について、一次スクリーニングのリストが作成された。

このリストには不十分な点が多いので、候補者の名前、所属、電子メールアドレスの修正を依頼したい。もう一つは、シンポジウムのトピックスを選んでほしい。候補者の追加も依頼

したい。電子メールなどで永山委員に連絡する。

4 会誌変革について（美宅；資料：議4）

入佐委員からは、中西印刷は印刷・出版の「おまけ」として、HP・会員情報メーリングリストの管理を低額で行うことができることが補足された。また、サイベック社からの Web 査読システム(サイベック社がさらに外注)の見積もり(約150万円)が報告された。

中西印刷では、J-stage2（より低額が期待される）を使う予定らしい。

また、学会事務センターから Web による会員異動・受付システムの提案があったことが入佐委員より報告があった。この提案では、パスワード発行に必要な経費約25万円以外の経費は学会事務センターで負担するというものである。これは、会員情報を管理するもので実際には、学会 HP で簡易版が試行されている。この件は、HP だけでなく、会員情報の問題を含むため、会員担当の運営委員も今後担当することになることが強調された。電子化に関して、学会事務センターは会員情報管理を、サイベック社は投稿・査読システムを、中西印刷はその両方とメーリングリストの管理を行うことができる。

これから見積もりを集め、次期運営委員会、次期 WG において議論される。

美宅副会長からは、入佐委員に引き続き、会誌の将来についての WG の一員として力を借りたい旨が述べられたが、入佐委員からは辞退したいという返答であった。

5 物理学会分科会世話人推薦について（柳田；資料：議5）

神山勉先生より、物理学会における生体物理分科会の世話人の推薦依頼があった。従来、インフォーマルに世話人を決めていたが、これからは運営委員会を通して正式に世話人を推薦してほしいという依頼である。次期は木下一彦氏と若手の人が内定しているので、その次から運営委員会で議論して推薦する。生物物理の会員が物理学会でアクティブに活動することが物理学会との窓口を維持することに重要な役割を果たしている。主な仕事は、プログラム編集とシンポジウム企画提案、領域12の HP 担当、物理学会における宣伝などである。実際に本学会に対し、物理学会からの反響も多いので、運営委員会できちんと対応することが承認された。

6 次期監事候補者について（柳田）

津田先生を候補者にあげることで承認された。

以上

議事録作成：薬師寿治